

豊島区歯科医師会会員の皆様へ

令和元年度 糖尿病地域医療連携講演会開催のお知らせ

以下の通り、講演会を開催いたします

日時：令和元年11月27日水曜日 19時半開演

場所：公益社団法人 東京都豊島区歯科医師会 会館3階ホール

講師：昭和大学歯学部歯周病学講座 山本松男教授

演題：歯周病と糖尿病の関連について

「歯周病と糖尿病の関わりと、生活習慣病治療薬服用に付随するとと思われる口腔内の変化」

歯周病は、歯の生えざわ（歯頸部）に滞積した歯垢が原因で歯周組織に炎症を生じ、それが慢性的に継続することで歯周組織の破壊、最終的には歯の脱落に至る疾患である。歯垢は口腔細菌の菌塊で数百種類以上の微生物からなる細菌叢である。歯周病は口腔細菌の感染症であるが、歯周病原細菌とされる細菌は必ずしもコッホの三原則を満たさず、歯周病の病態はやや理解しにくい。糖尿病は局所の免疫機能が低下することから歯周炎による組織破壊が進みやすいことが古くから観察されてきたが、慢性炎症であるために、サイトカイン産生や持続的な細菌体成分の体内への流入を介して、糖尿病の病態にも影響を与えることがわかってきている。糖尿と歯周病は相互に影響を歯合う関係で、医科と歯科の両方向からの取り組みが必要になる代表例である。

歯周病は罹患率が国民の7割ともいわれているが、なかなか制圧することのできないやっかいな疾患である。例えば感染症であれば抗菌薬の投与で解決できないのかと考える医療関係者は少なくないようであるが、歯周病が治りにくい原因は、バイオフィルム感染症であることにある。また、疾患の進行には多くの因子が関連する多因子性疾患であることも、歯周病をわかりにくくしている原因であるとも思える。

今回は、改めて歯周病のメカニズムを上記のような点から述べ、歯周病治療による体への影響などについて、歯周治療の指針や介入研究の結果などを交えながら紹介する。また、歯周組織に影響のみられる薬剤等にも対象を広げて、歯科治療で遭遇する医科診療絡みの事象について情報提供を行う。医科、歯科のそれぞれの立場があって診療が成立しているが、相互に関連する事柄の理解を深め、連携のとれた医療の実践の一助になれば幸いである。



～山本松男先生ご略歴～

平成 4年(1992) 東京医科歯科大学歯学部卒業
平成 8年(1996) 東京医科歯科大学大学院修了・博士(歯学)(歯周病学・石川烈教授)
平成 9年(1997) 米国アーカンソー州立医科大学内分泌部門・骨粗鬆症センターに留学(ポスドク)
平成12年(2000) 鹿児島大学歯学部助手(歯周病学)
平成14年(2002) 鹿児島大学生命科学資源開発研究センター助教授
平成17年(2005) 昭和大学歯学部教授(歯周病学) 現在に至る

昭和大学大学院保健医療学研究科担当兼務(平成27年1月1月から)

非常勤講師：

鹿児島大学歯学部(平成16年)、北海道大学大学院歯学研究科(平成16年)、徳島大学歯学部(平成19年)
広島大学歯学部(平成22年)、岡山大学歯学部(平成24年)、新潟大学歯学部(平成26年度)
東京医科歯科大学(平成20-令和元年度)、九州大学(平成31年=令和元年度)
日本歯周病学会(常任理事、専門医、指導医)
日本歯科保存学会(会理事、専門医、指導医)
臨床修練指導歯科医師(厚生労働省)(平成23年～)
産業歯科医師(日本歯科医師会)(平成27年8月9日～)
日本医工ものづくりcommons会員・評議員
日本歯科医学会英文編集雑誌編集委員 Editorial Board委員(平成25年7月1日～平成29年6月30日)
(学会活動 会員だけの立場のものは略)
東京医科歯科大学歯学部歯学科6年終了時臨床技能達成度確認試験・OSCE外部評価者(平成25-6年度)

*下線は、現在のもの

会費無料

事前申込は必要ありません

糖尿病地域連携に新規登録希望の医療機関、また現在すでに登録している医療機関も印鑑をご持参ください。